

(別記)

令和7年度忍野村地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約 24.3%で、転作作物に占める大豆、そばの面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいる。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中で、他の作物の作付に転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、不作付地の拡大が進んでいる。こうした中、水稲作付面積の維持が課題となっている。

そのほか、大豆については排水不良、土壌酸度の不適正等により単収の低下を招いており、是正が必要になっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域は、高冷地であり冷涼な気候を生かしたスイートコーン等の高原野菜の栽培が盛んであるため、ブランド化を目標に収益力を強化することを目標とする。また、新たな特産品になりえる作物を積極的に栽培してもらうため、村独自の種子・種苗の補助金のさらなる周知に取り組んでいく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

少子高齢化だけでなく水路やポンプの経年劣化により水田経営面積が減少している中で、畑地化を含めた水田の耕作放棄地を抑制させるため中間管理機構等を活用した地権者と耕作者の橋渡しに取り組んでいく。

4 作物ごとの取組方針等

村内の約66ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底によって米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。また、中食・外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引の推進を図る。

(2) 備蓄米

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

イ 米粉用米

ウ 新市場開拓用米

エ WCS 用稲

オ 加工用米

(4) 麦、大豆、飼料作物

現行の排水良好水田（約33ha）においては、弾丸暗渠等による排水対策に取り組みながら、5年後においても、現行の大豆の作付面積を維持する。

(5) そば、なたね

地域の実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

(6) 地力増進作物

(7) 高収益作物

「とうもろこし」を振興品目として拡大する。

5 作物ごとの作付予定面積等 ~ **8 産地交付金の活用方法の明細**

別紙のとおり